

日本語を母語としない子どもたちとともに
JSL 日本語指導教育研究会通信

JSL (=Japanese as a second language)

令和2年9月 第1号

発行者 会長 熊本 修治
日本語指導教育研究会 事務局

第1回研修会 福岡市教育センター

JSL日本語指導教育研究会について

・筑紫丘小学校 池田尚登先生 小田潤子先生 原田徳子先生

日本語サポートセンターの池田尚登先生に今年度の研究主題について説明いただきました。令和元年6月28日に公布・施行された「日本語教育の推進に関する法律」にともない、日本語教育の充実や制度の整備が定められ、国全体で日本語教育の質を上げていく必要が高まっています。今年度もコロナ禍の中ではありますが、福岡市の小中学校全体でより良い指導にあたっていきたいと改めて感じました。



全体研修1 日本語担当教員の役割

・東箱崎小学校 上田渉先生 ・博多中学校 横山小織先生

令和元年度外国人児童生徒等に対する日本語指導者養成研修の報告をしていただきました。「教科と日本語の統合学習」の授業のイメージを教えてください、週1、2回の限られた時間の中でどのような支援が有効かを考えることができました。



・日本語指導とは「子どもの人権を守ること」との話から、移動する子どもたちに「世界のどこでも生きていける学力」をつけることの大切さを感じました。

- 教えたことを教えるのではなく、どうしたら在籍学級の学習に参加できるかという一点からすべきことを考えるということがよく分かった。
- 日本語指導とは「子どもの人権を守ること」と聞いて、やっぱり学校になかなか来ない子を来れるようにする必要があったと思いました。

全体研修3 日本語初期指導について

・博多小学校 合田佐和子先生

1年間の小学校での仕事と中学校での仕事を詳しくお話しいただきました。小学部では、お便りの英訳文書に英語とローマ字で書いた日本語を併用し、少しずつ保護者に日本語を覚えてもらうなどの工夫をされていました。また、中学部の発表では、進路保障について特別措置の最新情報を詳しく共有していただきました。



- マジックテープを使った教材は一度見せていただきたいです。
- 「文字が入らなくて困る」ではなく「なかなか入らない子だから」と受け入れているところが良かった。

全体研修4 小中部会 在籍学級の担任の先生との連携について (小) 進路について (中)

・城浜小学校 早田浩二先生 下條道子先生
・城香中学校 日高美和先生 春吉中学校 薄里美先生

日本語指導の児童生徒が在籍する学級の担任の先生との連携する上での実践・工夫を発表し、どのように連携していけばよいかを考えました。



- 自分もっている生徒の力を正しく見極めることが大切だとわかりました。
- 進路保障のためにそれぞれの生徒の指導計画をカスタマイズしていくことが必要だと感じました。

日本語を母語としない子どもたちとともに
JSL 日本語指導教育研究会通信

JSL (=Japanese as a second language)

令和2年10月 第2号

発行者 会長 熊本 修治
日本語指導教育研究会 事務局

第2回研修会 福岡市教育センター

全体研修1 個人研修について

・筑紫丘小学校 原田 徳子先生 博多中学校 横山 小織先生

今年度各々で取り組む個人研修の方法を示していただきました。動画を効果的につかっ

て、文型を学ばせる日本語初期指導と指導案を提案していただきました。

また、中学校でのパワーポイントをつかったのプレゼンテーションの授業を紹介いただきました。どちらも児童生徒の力を引き出す工夫がされていて、参考になりました。これから、サバイバル日本語、日本語基礎指、教科との統合指導、技能別日本語の中から自分が取り組みたいものに取り組みます。

○具体的な実践や指導案の提案をしていただいて、今後の展望が持てました。

○中学校の日本語指導の工夫について横山先生の指導力や生徒の力を見取り、伸ばす計画の立て方などとても勉強になりました。



全体研修2 日本語初期指導（中学校）について

・博多中学校 萬石 ゆかり先生

博多中学校で実施されている日本語初期指導についてお話しいただきました。日本語の学習以外の生活面や生徒指導面でのきめ細やかなサポートがされていました。博多中学校では、外国人生徒が転入してきた際に、学校生活の紹介動画を見せて、見通しを持たせています。学習力につなげる目標設定をさせたり、ストレスケアを充分にされていて、生徒たちが前向きに学校生活に取り組んでいる様子が想像できました。



○学校生活の紹介動画、学校で使いそうな翻訳シートは小学校でも使えそうです。ワールドルーム新聞はとも参考になりました。教科連絡シールを連絡帳に貼るなど、細かい指導をされていると思いました。

○非漢字圏の漢字の学習を参考にさせていただきたいです。

全体研修3 小中部会 受け入れ時の適応支援について（小）進路について（中）

・城浜小学校 早田浩二先生 下條道子先生
・城香中学校 日高美和先生 春吉中学校 薄里美先生

小学校部会では、外国人児童を受け入れる際に行っている実践や工夫について発表しました。児童に対する支援、保護者に対する支援、在籍学級の担任の先生に対するフォロー、学校全体で各学校で行っていることを紹介しました。児童には、言葉の支援だけでなく、学校生活を送る上での細やかな支援や、友人と良好な関係を築くための支援など、各学校で個に応じた細やかな支援が紹介されました。

また、中学部の発表では、進路保障について特別措置の最新情報を共有しました。

○各校のいろいろな取り組みが聞けて、参考になりました。

○児童・保護者への支援だけでなく、学校全体の受け入れ態勢の準備の大切さを改めて感じました。



日本語を母語としない子どもたちとともに
JSL 日本語指導教育研究会通信

JSL (=Japanese as a second language)

第3回研修会 福岡市教育センター

令和2年12月 第3回

発行者 会長 熊本 修治

日本語指導教育研究会 事務局

全体研修1 福岡の国際化の現状について

・福岡市の国際化の現状について

講師福岡市総務企画局 国際政策課 中村聡様

福岡市国際政策課の政策をグローバルな視点からお話いただきました。国内での都市間競争ではなく、アジアの中の都市として他国の都市との競争が起き、それぞれの都市がより魅力的な都市づくりのために努力していることがわかりました。その中で、日本の福岡市として充実した施策が行われていました。福岡市に転入してきた外国人に対して、ごみの出し方等の生活のルールや交通ルール、税金の支払い方法など必要な情報をまとめてパンフレットやリーフレット等を充実した政策が行われていました。また、コロナに関する相談に多言語で対応する等臨機応変に対応しています。外国人が日本人と快適な暮らしができるようにさまざまな工夫がされてありました。



○外国人が福岡に住むことの満足度が非常に高く、驚いた。国際政策課の方をはじめとし、福岡市の中のいろいろなところで努力されていることがわかった。

○福岡市に住む外国人の方のために、環境が丁寧に整備されていて、充実した生活をおくっていることがわかりました。

全体研修2 小中部会 話す力を伸ばす指導の工夫(小) 進路について(中)

・城浜小学校 早田浩二先生 下條道子先生

・城香中学校 日高美和先生 春吉中学校 薄里美先生

小学校部会では、話す力を伸ばす際に行っている指導の工夫や実践を発表しました。話しやすく自己開示できるような雰囲気をつくることの大切さを改めて感じました。また、話しかける際のことば、日本語と博多弁の接続、インフォメーションギャップや虚構を用いての学習、さまざまな教材を用いて、それぞれの学校で工夫された指導が行われていました。話す必要性のある状況をつくって、話させる工夫がとても参考になりました。また、中学部は、次年度入試の県立・市立の入学選抜要項についての確認を行い、特別措置等の最新情報を共有しました。



○先生方の指導の工夫や手作りの教材などを紹介していただき、とても参考になった。

できるものから取り入れていきたいと思う。

○会話のきっかけや内容など、いろいろな工夫を知ることができて良かった。

○高校の入試についてまた新たに知ることがあった。生徒の状況が一人一人違うので、確認することが毎年あるので、この機会は必要だと思う。

日本語を母語としない子どもたちとともに
JSL 日本語指導教育研究会通信

JSL (=Japanese as a second language)

令和3年1月 第4回
発行者 会長 熊本 修治
日本語指導教育研究会 事務局

第4回研修会 オンライン開催

全体研修Ⅰ 適応支援について

壱岐中学校 越智公子先生 内浜小学校 平山智子先生

実際に起こった事例を元に、適応支援について話をいただきました。内浜小学校、壱岐中学校では、日頃から日本語指導担当が担任の先生をサポートし、児童生徒、クラスメート、保護者を結びつける役割をされていました。また、問題が起こった際に、円滑に解決できるよう、担任の先生、児童、保護者、クラスメートそれぞれに、適切な働きかけをされていました。それと同時に、問題を対象児童生徒の成長のチャンスと捉え、問題に直面した児童生徒がさらに成長できるような指導をクラスや学年と連携して行っていました。日本語指導担当として、普段から担任の先生、児童、保護者から信頼を得ていることがとても重要だということを改めて感じさせられました。

- 保護者と担任と日本語担当が該当児童の不安と思案の経験を見守り、連携して対処することが、今後の行動にかせるのだなと思いました。
- 中学生になると担任よりも周りの生徒を巻き込んで生徒同士で考えさせるという手立てが重要であることが改めてわかりました。
- それぞれの生徒さんの様子を学年、心の教室、すべての職員に共有すること。また学級の生徒にもその生徒の様子について考えさせ、動かすことをされていることがとてもいいなと思いました。

第5回研修会 オンライン開催

第4回小中学校部会

城浜小学校 早田浩二先生 下條道子先生 城香中学校 日高美和先生 春吉中学校 薄里美先生

第4回小学校部会では、『読む力を伸ばす指導の工夫』について小学校部の先生方にお話しいただきました。普段からそれぞれの学校で読む力を伸ばすために行っている指導、市販の教材、自作の教材を紹介していただきました。児童の実態に合わせて、工夫された指導が行われていました。今回共有できた指導の工夫をより良い指導につなげたいと思います。

また、中学校部会では、日本語指導におけるICT教育についての実践や工夫を共有しました。

- 国語の教科書についている音読音声データを渡して、家で練習させている。
- Googleフォームを使って読解問題を作って、宿題にし、解かせている。子どもにはテストと言って、解かせている。選択問題で、解き終わったら点数が出る。確認や宿題にちょうどいい。
- Kanza soft を使って、語彙を増やしている。ミライシードをワールドルームでも利用している。
- レベル別日本語多読ライブラリーは、CDとルビがついている。日本の文化や伝統についての内容が入っている。最後に読解確認をしている。
- 読売新聞ワークシート通信の配信を利用している。学年に応じた内容を選ぶことができ、知識の確認、文法の確認、内容の確認をしている。また、読んだ後で、感想を書かせたり、意見文を書かせたりしている。

Ogoogle form や KANZA file が使えるようになりたいと思う。

○先生方の実践をメモにとるのに必死でした。ありがとうございました。